



佐賀大学の魅力

佐賀大学が誇れる「セールスポイント」は？

国立大学法人佐賀大学広報室

目 次

| | |
|---------------------|---|
| 佐大という「ブランド」(広報室長挨拶) | 1 |
|---------------------|---|

各学部の”ナンバー3！” 各センター等の”オンリー1！”

| | |
|-------------------|----|
| 文化教育学部 | 2 |
| 経済学部 | 3 |
| 医学部・医学部附属病院 | 4 |
| 理工学部 | 5 |
| 農学部 | 6 |
| 教養教育運営機構 | 7 |
| 附属図書館 | 7 |
| 海洋エネルギー研究センター | 7 |
| 科学技術共同開発センター | 8 |
| 総合分析実験センター | 8 |
| 学術情報処理センター | 8 |
| 留学生センター | 9 |
| 低平地研究センター | 9 |
| 海浜台地生物環境研究センター | 9 |
| シンクロトン光応用研究センター | 10 |
| 高等教育開発センター | 10 |
| ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー | 10 |
| 有明海総合研究プロジェクト | 11 |

各学部の誇れる点、優れた成果等

| | |
|-------------|----|
| 文化教育学部 | 12 |
| 経済学部 | 14 |
| 医学部・医学部附属病院 | 15 |
| 理工学部 | 19 |
| 農学部 | 24 |

将来への指針

佐賀大学は、現在、5学部(文化教育学部、経済学部、医学部、理工学部、農学部)を有し、学生数約7,300人が在籍する総合大学で、その規模は、全国87国立大学の中では、約30位に位置している。中規模の国立大学ではあるが、そこには、世界的に誇れる研究や、どの大学にも引けをとらない魅力的な授業を展開する教授陣がいる。

『佐賀大学の魅力』は、そのような「佐賀大学の實力」を一冊にまとめたものである。各学部・学科や課程、そして各研究教育センターで、成果を上げている教育活動、世界的レベルの研究成果、他大学には見られないユニークな研究教育活動、さらには資格や免許の高い取得率や合格実績など、佐賀大学のすばらしさが一目で分かるようになっている。他大学の同一の学部や分野と比べて、佐賀大学が誇りとできる、いわば「セールスポイント」である。

大学は、入ること以上に、入った後の4年間をどのように過ごすかがはるかに大事である。本冊子は、入学後、どのようなすばらしいものが佐大で待っているかを、明快な形で提示している。すでに将来の目標がある程度決まっている人は、他大学と違った佐大の良さを認識してもらえるはずであり、まだ将来について漠然としている人も、興味をかき立てる分野がきっと発見できるはずである。本冊子の一行が、将来への道しるべとなることを期待している。

佐賀大学広報室長

早瀬 博範

文化教育学部



ナンバー1

理科が好きになれる、教師になれる！

「身の周りで起こっている現象が不思議ではありませんか。」
学校教育課程理科選修では、この疑問を実験・観察を通して解決していき、その感動を子どもたちに伝え、理科離れの児童・生徒にも興味をもたせられるような教師の育成を目指している。



ナンバー2

よき伝統があります！よき学生がいます！よき教員がいます！

美術工芸課程には、学力及び実技の能力が全国レベル以上の学生が入学している。
在学生は活発な創作活動を行っており、地方公募展、全国公募展、全国コンクール等で多数入選・入賞をしている。



ナンバー3

教師になって数学の魅力を伝えよう！

学校教育課程数学選修では、数学嫌いの児童・生徒にも興味をもたせ、効果的な教育ができる教師になれるように、教育内容や方法を考慮したユニークな授業(「身のまわりの数学」)を開講している。

* * もっと知りたいことは、下記へアクセスを！ * *

Tel.0952 - 28 - 8213

URL : <http://www.saga-u.ac.jp/jump/bunkyou.html>

経済学部



ナンバー1

国際化は女子学生から？

アジア各国の大学やヨーロッパの大学に留学して、語学や各国の経済を学ぶ学生が増えている。
特に、意欲のある元気な女子学生が多い。



ナンバー2

自らスキルアップ

簿記、会計の資格を取得する意欲のある学生が多い。
また、公務員講座の受講生も多く、自分を磨くことに熱心である。



ナンバー3

学業以外での活躍の場も盛ん

ピースボートで世界一周をしたり、学生手作りのボランティア活動の組織を立ち上げたりと、学外での活躍の場を広めている学生も多い。

＊ ＊もっと知りたいことは、下記へアクセスを！ ＊ ＊

Tel.0952 - 28 - 8413

URL : <http://www.saga-u.ac.jp/jump/eco.html>

医 学 部



ナンバー1

臨床と研究の融合をめざす循環器内科学教室

冠動脈インターベンション術症例数は全国国立大学中3位。
「血管不全学講座」と「先端心臓病学講座」の二つの寄附講座を有し、生活習慣病に起因する血管機能障害を「血管不全」という概念で捉え、病態解明と診断基準・治療戦略の確立を目指している。



ナンバー2

アレルギー疾患を引き起こすSNPの発見

インターロイキン4(IL-4)、IL-13というTh2型サイトカインがどのようにしてアレルギー疾患を起こしているのか解明しようとしている。
IL-4受容体α鎖とIL-13遺伝子のSNPがアレルギー疾患に関連することを世界で最初に報告した。



ナンバー3

平成5年開設 九州で最も歴史ある看護学科

国家試験の合格率は高く、看護師は開設以来全国平均を上回り過去6年間は100%。
保健師は初年度を除き全国平均を上回り平成15年度は98.6%、助産師は平成13年度を除き100%となっている。
就職(進学含む)率もほぼ100%となっている。

＊ ＊もっと知りたいことは、下記へアクセスを！ ＊ ＊

Tel.0952-31-6511

(医学部)URL:<http://www.med.saga-u.ac.jp/> (附属病院)URL:<http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

理 工 学 部



ナンバー1

理学系と工学系が融合した 全国国立大学ではめずらしい「理工学部」

全国でもめずらしい理工学部は、理学系と工学系が同一学部にあるという特色を最大限に発揮し、科学と技術の融合による基礎科学とハイテクノロジーの推進を旗印に、ユニークな教育と研究に意欲的に取り組んでいる。



ナンバー2

JABEE 受審と受審計画

JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education)は、日本技術者教育認定機構である。
教育の質の検証、教育方法の検証など完全な外部評価が行われる。
理工学部では平成15年知能情報システム学科が受審。合格。
平成17年機械システム工学科受審予定。
平成18年機能物質化学科受審予定。
平成19年電気電子工学科受審予定。



ナンバー3

少人数教育と国際性豊かな講義

教員と学生が膝をつきあわせた少人数教育の実践や、外国人教員による国際性豊かな講義を受けることができる。

* * もっと知りたいことは、下記へアクセスを！ * *

Tel.0952 - 28 - 8513

URL : <http://www.saga-u.ac.jp/jump/se.html>

農 学 部



ナンバー1

基礎と応用の両方を重視する農学

日本有数の食料生産基地である佐賀平野の真ん中に位置する利点を活かし、科学の進歩と地域農業の発展の両面において大きな貢献をしている。



ナンバー2

(実力 + 個性) 派教授陣

教育・研究・地域貢献・国際貢献の経験が豊かで個性に富む教授陣による充実した講義・演習・実験実習・卒業研究を受けられる。



ナンバー3

大地や生き物に触れる機会が多い

農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター(農場)の桜の花の下でバーベキューを食べながら語り合う新入生歓迎会が待っている。
同センターの実習では、**大地と生き物に思い切り触れることができる。**

* *もっと知りたいことは、下記へアクセスを！ * *

Tel.0952 - 28 - 8713

URL : <http://www.saga-u.ac.jp/jump/ag.html>

教養教育運営機構のオンリー1

産官学連携による魅力ある教養教育の推進

佐賀新聞社の「ジャーナリズムの現在～地方紙の役割とメディアリテラシー」や佐賀市との「佐賀環境フォーラム」に加え、平成17年度は佐賀県による「映像形態論」「映像芸術論」や佐賀大学同窓会による「キャリアデザイン-自分発見講座-」の提供授業を開講するなど、産官学連携による魅力ある教養教育を推し進めている。

Tel.0952-28-8815

URL: <http://www.ofge.saga-u.ac.jp/>

附属図書館のオンリー1

他大学にない『100選コーナー』設置

『高校生が大学に入ったら読みたい本100選コーナー』や『シラバス図書コーナー』を設け、きめ細かいサービスを行っており利用も多い。

大学評価関係図書(ランキング、科研採択一覧等)も数多く配架している。

Tel.0952-28-8902

URL: <http://www.lib.saga-u.ac.jp/>

海洋エネルギー研究センターのオンリー1

海洋温度差発電の研究では全国トップクラス

センターは、約30年前から海洋温度差発電をはじめ海洋エネルギーに関する研究教育を推進している。

最先端の新しい30kW 発電実験装置を有するなど、本分野では我が国唯一の研究拠点である。

南太平洋の国々をはじめ、世界の国々と協力して実用化を目指している。

Tel.0952-28-8624

E-mail: research@ioes.saga-u.ac.jp

URL: <http://www.ioes.saga-u.ac.jp/>

科学技術共同開発センターのオンリー1

問題解決型の特色あるベンチャー教育を実施

科技センターでは、学生への実際的な応用教育・研究指導の一貫として、学生がテーマを自由に選ぶインキュベート研究や、工場見学とビジネスプランコンテストを組み合わせた問題解決型教育を実施し、産学連携に貢献している。

Tel.0952 - 28 - 8965

E-mail:center@ml.cc.saga-u.ac.jp

URL:http://www.rd.saga-u.ac.jp/

総合分析実験センターのオンリー1

佐賀大学のサイエンスの大動脈

学内外の科学技術向上のための支援センターとして働く。
特に生命科学研究に特化した共同研究体制を組んでいる。
中でも生物資源開発部門は遺伝子組み換え動・植物の生産と研究に秀でている。

Tel.0952 - 28 - 8896

URL:http://www.iac.saga-u.ac.jp/index.htm

学術情報処理センターのオンリー1

「最先端を行く学術基幹情報システム」

全国に先駆けて高度システムを次々と実現。
全学に認証付きの無線 LAN と情報コンセントを配備し、学生の利用を促進。
認証を統合し、利用者は唯一の ID で利用可能。
演習室を 2-OS 切替の大規模ディスクレス運用。
学内の研究教育情報を電子図書館に統合。

Tel.0952 - 28 - 8592

URL:http://www.cc.saga-u.ac.jp/index.j.php

留学生センターのオンリー1

留学生と日本人学生の協同講義

留学生センターで開講している留学生向けの日本語クラス及び日本語研修コースにおいて、日本人学生を同一クラスに参加させ、留学生の日本語力に応じた個別指導の充実を図っている。

更に留学生と日本人学生の異文化理解・交流を深めている。

Tel.0952 - 28 - 8168

E-mail: ryugaku@cc.saga-u.ac.jp

URL: <http://www.isc.saga-u.ac.jp/>

低平地研究センターのオンリー1

「低平地」を切り口とする国内唯一の学術研究機関

世界的にも屈指の超軟弱な有明粘土地盤上に広がった低平地である佐賀平野の諸問題はもとより、世界的な低平地研究の中核的研究施設として広く研究成果を世界へ発信することを目指し、研究を進めている。

Tel.0952 - 28 - 8582

E-mail: ilt@ilt.saga-u.ac.jp

URL: <http://www.ilt.saga-u.ac.jp/index.html>

海浜台地生物環境研究センターのオンリー1

陸域と海域の相互関連システムに関する研究

「海の恵みを陸へ、陸の恵みを海へ」をキャッチコピーとし、海藻等からの有用物質を陸の農業に使い、海域における漁業等の産業に負荷を与えないような陸域での環境保全型・資源循環型の農業生産体系の在り方を研究している。

Tel.0955 - 77 - 4484

URL: <http://www.saga-u.ac.jp/kokusai/kaihinn.top.htm>

シンクロトロン光応用研究センターのオンリー1

世界に通用する研究機関を持つ

研究テーマは「半導体と生命体を融合した環境・医用・エネルギー材料開発研究」であり、シンクロトロン光利用研究の高度化とそれに関連する独自の研究開発、人材の育成を目指している。

Tel.0952 - 28 - 8854

E-mail: slcenter@ml.cc.saga-u.ac.jp

URL: <http://www.slcenter.saga-u.ac.jp/>

高等教育開発センターのオンリー1

「教育先導大学」の牽引車

今年度から実施される大型教育プロジェクト「地域創成型学生参画教育モデル」開発事業は、研究機関でもある大学の利点を生かした、研究と地域貢献に教育を融合させた革新的なプロジェクトである。

上記のような、全国でも例を見ない事業を昨年度から複数実施している。

Tel.0952 - 28 - 8402

URL: <http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/>

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーのオンリー1

高度の専門的職業能力を持ち、ベンチャー精神に

富んだ創造的人材の育成を目指す！

教育研究テーマは、「インテグレイティド・エレクトロニクスとヒューマン科学技術の開発」と「シンクロトロン放射光を用いた次世代基盤技術の開発研究」で、これまでの研究科の枠を超えて協力して大学院教育および研究を進めている。

Tel.0952 - 28 - 8853

E-mail: vbljimu@vbl.saga-u.ac.jp URL: <http://www.vbl.saga-u.ac.jp/>

地の利を生かした全学参加の有明海総合研究

有明海湾奥部に位置し、地元の支援を得ながら有明海研究を継続中。
5つの学部や研究センターの研究者がさまざまな面から有明海研究を実施するとともに、全国から新たに5名の教員を任期付きで公募し、研究体制を強化。

Tel.0952 - 28 - 8846

URL: <http://www.ariake.civil.saga-u.ac.jp/index.html>

文化教育学部

| 学科・講座等 | 誇れる点、優れた成果等 |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育学選修 | 1年次より学生をグループに分け、教育に関する幅広い分野について調査や研究活動を行わせている。 特にここ数年は、通常の学校に在籍しているLD(学習障害)などの発達障害を有する児童生徒への学習支援や行動改善支援に関する学修や実践に力を入れている。 |
| 教育心理学選修 | 佐賀市適応指導教室と佐賀県総合センターに学生ボランティア(補助指導員)として、毎年各2～3名派遣され、 不登校児童生徒への適応指導 に携わっている。 学生にとっての1年間の体験は、教職などについて実際に現場から高く評価されている。 |
| 障害児教育選修 | 特別支援教育に対応できる教員の養成を目指している。卒業生は学校において 特別支援コーディネーター 等の指導的な役割を果たしている。 当選修で理論と実践力を養われた学生は、時を経るごとに教育界から需要度が高まっている。 |
| 教科教育選修 | 小・中・高等学校教員の養成を目的に、 1年次から学生を専門教育分野に分け 、教育問題への対応能力、専門分野の教育能力、授業実践能力等の育成に力を入れている。 大学院を含め、卒業生は各県の教職関係(行政職を含む)や民間企業でそれぞれの専門能力を活かし活躍している。 |
| 理科選修 | 理科離れの児童・生徒にも興味をもたせ効果的な教育ができるようにするために、1年次に「 身近な現象のサイエンス 」という授業科目を開講している。 理科選修の学生はこの授業科目を必ず履修し、理科の各分野の身近にある話題を素材にした講義を聴くとともに、実験や観察を行うことによって、サイエンスの内容・方法を自ら体得する。さらに、「 身のまわりの数学 」も選択履修できる。 |
| 数学選修 | 数学離れの児童・生徒にも興味をもたせ効果的な教育をするための教育内容・方法について、「 ユニークな授業 」が開講されている。 数学選修生は「 身のまわりの数学 」を必ず履修し、数学の各分野の身近にある話題を素材にして、操作的な実習を通じて数理的感覚を体得する。さらに、「 身近な現象のサイエンス 」も選択履修できる。 |
| 音楽選修 | 小規模クラスでこそ可能なきめ細かい教員によるサポート体制と補充授業。年2回の音楽ホールでのレッスンやジョイントリサイタル、公開講座への参加等。 コンクール受賞者 も出ている。(ピアノ)九州のみならず全国から集まる学生は、放課後チューター、訪問演奏等ボランティア活動にも意欲的で、テレビ・新聞に取りあげられた。卒業生は、音楽専科を任せられる 教師 として高い評価を得ている。 |

学校教育課程

| | | |
|---------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際文化課程 | 日本・アジア文化選修 | 開講科目及び研究領域はアジア全域をカバーできるスタッフを揃え、半数の教員は博士の学位を持ち、科学研究費補助金による研究を行うなど、水準の高い研究を行っている。 アジア諸国とのシンポジウム開催も実施。 選修の学生と教員の比率は約2:1 で、きめ細かい指導体制である。 |
| | 欧米文化選修 | 多面的で特色のある研究を基に欧米諸国の言語・文化・社会などに関する幅広い授業を展開している。少人数教育で語学力を養い、英米への公費や私費での 留学 (毎年3-10名)のほか、 語学研修旅行 参加など学生の意欲も高い。公開講座や共同研究への取り組みも成果をあげている。 |
| 人間環境課程 | 生活・環境・技術選修 | 地域・社会のなかの生活文化について歴史学、地理学、社会学、家政学の各専門分野で研究する教員が、幅広い関心と確かな知識を有する学生を育てている。 卒業生は、 家庭科・社会科の教員、公務員、流通業、自営業、製造業、福祉施設職員 など多岐にわたる分野に就職し、例年高い就職率を誇っている。 |
| | 健康福祉・スポーツ選修 | 社会福祉士国家試験の合格率は毎年全国のトップ である。 健康福祉スポーツ総合セミナーは、海外の健康福祉、スポーツ施設等で実習を行う。高齢者健康教室や少年サッカースクール等スポーツを通して地域貢献事業を展開している。 |
| 美術・工芸課程 | 美術・工芸選修 | 学力及び実技の能力が 全国レベル上位 の学生が入学している。 1学年30名の定員があり、在学学生は活発な創作活動をおこなっており、地方公募展・全国公募展・全国コンクール等で、 多数入選・入賞 をしている。 卒業生は民間企業、教職関係、造形作家と多岐にわたって活躍している。 |

経済学部

| 学科・講座等 | 誇れる点、優れた成果等 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際経済社会コース | <p>国際経済社会コースでは、経済のグローバル化と情報化に対応できる有能な人材の育成を目指している。特徴として、外国人教員による授業や実際に海外に行く体験型授業があること、現代経済の基礎理論や歴史が修得できること、情報処理の知識や計量経済分析なども身に付けられることがあげられる。</p> |
| 企業経営コース | <p>企業経営コースでは、基本教科で理論と実践を結びつけた教育を行っている。具体的には、「実践会計」では税理士法人、「現代企業経営論」では、地元企業や商工会議所・研究所等からの講師による実践教育を行っている。</p> |
| 総合政策コース | <p>総合政策コースでは、今の日本社会がかかえている最も重要で深刻な問題である不良債権問題、失業問題、医療問題、年金問題、財政赤字、市町村合併、町おこしなどを基礎から学ぶことができる。また、就職時に特に求められる政策を作る能力をみかくこともできる。</p> |
| 法務管理コース | <p>法務管理コースでは、経済学部にいながら、憲法・民法・商法・刑法など法律学の基本的な分野と、経済法や社会保障法、環境法といった応用的な分野を学ぶことができる。つまり、経済学と法律学の双方を詳しく学ぶことができる。本コースでは、さらに紛争当事者や法律家(裁判官・検察官・弁護士・司法書士など)の話を聞いたり、刑務所や裁判所を見学するなど、実践的な教育も行っている。</p> |

医学部・医学部附属病院

| 学科・講座等 | 誇れる点、優れた成果等 |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 看護学科 | <p>国家試験の合格率は高く、看護師は開設以来全国平均を上回り過去6年間は100%、保健師は初年度を除き全国平均を上回り平成15年度は98.6%、助産師は平成13年度を除き100%となっている。就職率はほぼ100%。</p> |
| 分子生命科学講座 | <p>免疫学分野:病原体を模知する分子を世界で初めて発見した(2000年度ベルツ賞)</p> <p>分子遺伝学分野:クロマチン構造の変化は遺伝子発現を制御し、その異常は、ある種の病気の原因となり、また細胞がん化の主要因としても知られる。我々は、ヒトとマウスを研究対象として、その基礎研究を行っており、国内でもトップクラスの成果をおさめている。</p> <p>分子医化学分野:インターロイキン4(IL-4)、IL-13というTh2型サイトカインがどのようにしてアレルギー疾患を起こしているのか解明しようとしている。IL-4受容体・鎖とIL-13遺伝子のSNPがアレルギー疾患に関連することを世界で最初に報告した。</p> <p>生体機能制御学分野:遺伝子改変動物の作成を通じて細胞の運命決定機構の解析を行っている。特に、リンパ球の分化をつかさどるIL-27の受容体の役割を世界に先駆けて報告し、その研究は世界をリードしている。</p> |
| 生体構造機能学講座 | <p>神経生理学分野:皮膚末梢に与えられた痛み刺激は脊髄を通過して脳に至り、“痛い!”と感じられる。この痛み情報伝達は脊髄における神経と神経の継ぎ目であるシナプスにおいて様々な生理活性物質の働きにより制御を受ける。この機構を細胞レベルで解明する研究を行っている。</p> |
| 社会医学講座 | <p>予防医学分野:医学と環境の接点を追求している。また、がんや生活習慣病の危険因子・防御因子の解明と予防対策の確立を目標として、ヒト集団を対象とした疫学的研究を活発に行っている。</p> <p>法医学分野:県内唯一の法医学関連機関であり、県人口あたりの法医解剖数は国内でトップクラスである。</p> |
| 救急医学講座 | <p>炭酸ガスについて「炭酸脱水酵素」を用いて研究し、pH生態制御機構説を提唱している。これは、当教室のユニークなテーマであり、日本で唯一の研究室である。</p> <p>臨床実習教育法としてCSS(Clinical Simulation Study)を開発して、臨床実習教育を行っている。この教育法は本学のPBL教育を発展させたものに位置づけられ、臨床教育に必須なものと全国から注目されている。</p> <p>成人教育として、BLS、ACLS、JPTEC、JATECなどを主催しており、これらの救急医療の病院前から救急診療室までの診療体制は大学としての役割であり、この充実度は全国の大学に誇れるものである。</p> |
| 地域医療科学教育研究センター | <p>当分野は、教育プログラムの構築研究とともに、地域ニーズと直結する教育・研究を行うことに基本軸があり、医学部と地域の新しい関係を生み出している。</p> <p>医学・看護学と高齢・障害者の生活支援技術となる家具・食具・住宅等地域の技術者との接点が繋がってきた。</p> <p>県・市町村との理解を深まり、産学官協働も活発化。即実績として、バリアフリー配慮の食具(有田町)家具(諸富町)については市販も始まった。</p> |
| 呼吸器内科 | <p>内科・外科・放射線科・病理の集学的カンファレンスによる悪性腫瘍の診療を実践している数少ない施設の一つである。</p> <p>肺癌治療効果の予測の為に、上皮増殖因子受容体変異などの遺伝子検査をいち早く導入し、より効果的な治療を行っている。</p> <p>肺癌発症機構の研究を行い、早期診断マーカーの開発、高危険群の判定など最先端の研究を行っている。</p> |

| 学科・講座等 | 誇れる点、優れた成果等 |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 循環器内科 | 冠動脈インターベンション術症例数は全国国立大学中3位。 「血管不全学講座」と「先端心臓病学講座」の二つの寄附講座を有し、生活習慣病に起因する血管機能障害を「血管不全」という概念で捉え、病態解明と診断基準・治療戦略の確立を目指している。 |
| 血液内科 | 日本臨床腫瘍グループ(JCOG)に参加し、最新の臨床研究をおこなっている。横断的臨床腫瘍班の中心として、総合的臨床腫瘍医療の実践をおこなっている。 |
| 膠原病・リウマチ内科 | ステロイド性大腿骨頭壊死症の予防研究をわが国で唯一行っている。 |
| 一般・消化器外科 | 消化器癌、乳癌を中心に診療を行っている。 佐賀県に多い 肝臓癌の治療成績は日経新聞の調査で生存係数において全国トップ の評価を得た。 胆嚢癌の治療成績もトップクラス。 進行癌の治療にも力を入れ、分子生物学的解析により癌治療の個別化を目指している。 |
| 心臓血管外科 | 大動脈弁温存基部再建術・Marfan症候群や大動脈弁閉鎖不全を伴う上行大動脈瘤に対して、我々は自己弁を温存する基部再建法(リモデリング法)を全国に先駆けて施行しており、優れた成績は注目されている。 |
| 整形外科 | 年間約700件の股関節手術を行っている。その件数は日本一である。 ちなみに2位は300件台である。 |
| 産科婦人科 | 本院産婦人科でホルタ-方式記録計の開発を独自で行い、24時間胎児心拍の管理が可能となった。当院では、この記録計を用いることにより、ハイリスク妊婦の管理において、就寝中であっても、妊婦に負担をかけることなく、児心音の管理が可能となった。 子宮筋腫の治療法の1つとして、放射線科と共同で、動脈造影下に選択的に両側子宮動脈を塞栓し、子宮筋腫の縮小をはかる方法を行っている。子宮摘出を望まない患者で、症状が強く、しかも 妊孕能の維持を必要としない女性を対象としている。 子宮頸部異形成から微小浸潤癌までの子宮頸部病変であれば、半導体レーザーメスを用いた円錐切除術を行っている。この方法を取れば、出血も少なく、妊孕能を温存した形で治療ができる。 |
| 小児科学 | 日本アレルギー学会認定指導医・専門医が4名おり、こどものアレルギー疾患に対してレベルの高い診断・治療を行うことができる。 九州内の小児科では数少ない専門医認定教育施設 でもある。 |
| 眼科 | 加齢黄斑変性は高齢者の視力低下の一因であるが、加齢黄斑変性に対して最新の治療法である光線力学療法を行っている。 ぶどう膜炎の診断と治療については、西日本で最高級のレベルにある。 |
| 歯科口腔外科 | 佐賀県唯一の歯科口腔外科 で、日本口腔外科学会認定研修施設、日本口腔インプラント学会認定研修施設であり、口腔外科学会認定指導医3名、口腔インプラント学会指導医2名、口腔外科学会認定医2名を有している。 本院において唯一「高度先進医療」を有する講座であり、しかも1つの講座で3つの高度先進医療(「インプラント義歯」、「顎顔面補綴治療」、「頭蓋顔面骨模型を用いた手術シミュレーション」)を有する講座は、国内でも珍しく、特に「 顎顔面補綴治療 」においては、 全国でもトップクラス の治療技術を有している。 |
| 附属病院 地域医療連携室 | 医療ソーシャルワーカー(MSW)を含む事務部門(患者サービス課)、看護部、安全管理部門、緩和ケアチーム、リハビリテーション部門、救急部、総合診療部などが関与し、医療に関連した患者さんの社会経済的諸問題について相談に応じ、様々の援助を行っている。 |

| 学科・講座等 | 誇れる点、優れた成果等 |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 附属病院検査部・輸血部 | <p>24時間緊急検査体制: 国立大学の先駆けである緊急臨床検査と緊急輸血検査の24時間体制を1981年の開院以来行なっている。</p> <p>臨床病理技術士資格: 二級は技師全員延べ61名が取得。一級は血清学1名、細菌学1名、臨床化学2名、計4名が取得。学会認定技師資格: 認定輸血検査技師2名、認定臨床化学者4名、認定臨床微生物検査技師1名、認定血液検査技師1名、計7名が取得。全国国立大学でもトップクラスの上級資格を持つ。</p> |
| 附属病院放射線部 | <p>最新鋭のフラットパネル検出器型の回転血管撮影装置が導入され、全身の良好な血管像と3次元血管画像を得ることができるようになり、頭部、肝臓を中心に診断とインターベンショナル・ラジオロジー(IVR、画像ガイド下疾患治療)へ活用されている。</p> <p>ラジオサージャリー・システムを用いた三次元X線照射装置、およびイリジウム線源を用いた腔内ガンマ線照射装置はともに佐賀県内唯一のものであり、侵襲の少ない癌治療が専門医により行われている。</p> <p>CT付きフラットパネル検出器型回転血管撮影装置は佐賀県内唯一のものであり、専門医により脳動脈瘤のコイル塞栓術、肝臓癌の化学塞栓療法などが行われている。</p> |
| 附属病院総合診療部 | <p>国立大学病院で最も歴史のある総合診療部。 患者さんが最初に受診する総合外来を担当するだけでなく、病棟診療、医学生の臨床教育にも重要な役割を果たし、わが国総合診療部の模範の一つと評価されている。日本総合診療医学会の事務局もある。</p> |
| 附属病院救急部 | <p>日本救急医学会指導医2名と専門医4名がいる。 1次～3次の全ての急性疾患を扱っている。</p> |
| 医療情報部 | <p>国立大学附属病院初の全患者の電子カルテ化を実現し、現場主義の立場から日々改良を行っている。</p> <p>臨床・研究・教育さらに保険診療を支援する病名登録を重視したPOSを導入し、地域チーム医療を念頭に置いて、医療情報を共有化している。</p> <p>電子カルテシステムに連携した独自の管理会計システムの導入により、損益分岐点分析等を通じて病院経営・運営に寄与し、DPCの分析システムの開発に着手した。</p> |
| 附属病院 リハビリテーション部 | <p>佐賀県下のリハビリテーションの充実と発展をめざし、地域の保健・福祉の向上に寄与することを目的とした活動を行っている。活動の主体である年に2回の研究会は、すでに44回開催されている。また、年に1回は一般市民へのリハビリテーションの啓発のための市民公開講座も開催している。</p> <p>上肢の切断者に対して使用される義手として本人の筋電を力源とする筋電義手がある。筋電義手のトレーニングが可能な施設は全国でも数少ないが、当部門では筋電義手のトレーニングシステムを作り、臨床・研究活動を行っている。</p> <p>疾病や外傷等による障害に対しての代償的アプローチはリハビリテーションでは大変重要である。この代償的アプローチの手段の一つとして、装具・義肢・車椅子・家屋改造などがあるが、これらの臨床・研究活動を地域医療科学教育研究センターと協力して行っている。</p> |
| 附属病院薬剤部 | <p>全国に先駆け、6年前から、自動注射薬払出システムの24時間稼働を行っており、深夜に稼働することにより、翌朝、直ちに病棟へ送付することができ、日勤時の業務の効率化にも役立っている。</p> <p>当院の薬剤師は昼夜を問わず入院されてくる総ての患者さんが持参された総ての薬について、今後の入院治療に影響を及ぼすような薬がないかをチェックし、その結果を主治医と相談する事で患者さんが安全な治療を受けることが出来るようサポートしている。</p> |

| 学科・講座等 | 誇れる点、優れた成果等 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 卒後臨床研修センター | 佐賀大学医学部附属病院の卒後1、2年目の研修医が所属する部門であるが、数多くの研修医が勤務しており、 定員の充足率 はいわゆる 国立新設医科大学中トップクラス である。また全国でも数少ない専任教員を有するセンターである。 |

理工学部

| 学科・講座等 | 誇れる点、優れた成果等 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数理科学科 | <p>数理科学科は、佐賀県及び近県の中高の数学教員養成学科としての重責を担って、過去に100名余りの数学教師を送り出している。</p> <p>数理科学科の入学志願者数、倍率は佐賀大学のトップを競う。これは、数理科学科が中高校数学教員養成学科として重要視されていることに一因がある。</p> <p>確率論の研究グループは、全国規模で見ても10指に入る研究活動を行っている。</p> |
| 物理科学科 | <p>教育面での特徴：1年次で物理学を学ぶための数学、基礎的な物理学を学習し、さらに年次進行にあわせてより高度な数学や物理学の基礎を学習する。特に基礎的な分野は4学期にわたって学習し、着実に身に付けることができるように配慮されている。3、4年次では量子力学、統計力学、相対論などの現代物理学の柱となる科目を学ぶほか、バランスの取れた多様な専門分野が選択科目として用意されており、物理学及び関連分野の幅広い知識が得られる。実験、理論双方にスタッフが充実しており、卒業研究の4年生には居室が、また学生用の自習室が完備している。</p> <p>基礎物理学大講座：九州地区で唯一、素粒子物理に関して理論と実験双方の研究グループを擁する。素粒子理論グループは場の理論、弦理論に基づいて初期宇宙における現象、超対称性理論、格子QCD(量子カラー力学)、弦理論の定式化に取り組み、実験グループは高エネルギー加速器を用いた実験により、Kメソン、Bメソン崩壊での粒子・反粒子(CP)対称性の破れと標準理論を超える物理の探索を行い、リニアコライダー実験への準備研究を進めている。ハドロン物理グループは、場の理論を用いて有限温度・密度におけるハドロン・クォーク物質の性質を研究し、その成果を高密度の中性子星などの研究に用いている。</p> <p>応用物理学大講座：磁性体物理、超伝導物理、量子干渉物理など、多様な研究分野に取り組むグループがある。それぞれに関連する素材として、ナノワイヤ、カーボンナノチューブ等の新規ナノ構造を創製し、ミクロスケールでの制御により、量子トンネル効果、超伝導電子対の量子干渉、スピン制御電気伝導等の新しいマクロ量子現象を創出する新しいナノ物理の創出に取り組んでいる。</p> <p>両大講座とも世界レベルの研究を行っており、国際共同研究、国際会議、シンポジウムなどでの成果発表、韓国との国際パートナーシッププログラムなど、国際交流が盛んである。</p> |
| 知能情報システム学科 | <p>本学科の教育プログラムは、平成15年度に日本技術者教育認定機構によって認定され、修了した学生は国家資格である技術士の一次試験が免除される。</p> <p>この認定は、情報分野では全国の国立大学で2番目である。</p> <p>また、人間に近づくコンピュータを作るために必要な基礎理論、プログラミング、情報処理などを学習できる。</p> <p>情報基礎学講座 - 代数的符号理論、暗号理論、精度保証付き数値計算、非線形解析、セルオートマトンモデル、複雑系理論、統計物理学、計算物理学、及びコンピュータネットワークやパターン認識の理論など、理論的情報科学の基礎的な概念と理論が学習できる。</p> |

| | |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>知能情報システム 学科</p> | <p>計算システム学講座 - 計算機システム、ソフトウェア工学、データベース、情報ネットワーク、インターネット、サーバ構築管理、セキュリティ、マルチメディア、遠隔講義などの情報システムに関する理論と応用を系統的に学習できる。</p> <p>高次情報処理学講座 - 知的教育システム、ヒューマンインターフェース、インターネットプロトコル、コンピュータ最適化、パターン情報処理・認識・理解、多次元逆問題等のリアルワールドコンピューティングの実現、ユビキタスコンピューティング社会に必要な理論と実際を学ぶことができる。</p> |
| <p>機能物質化学科</p> | <p>専門科目の試験問題、解答例、成績の統計結果・所感の各教員による作成、オフィスアワーやチューター制の設置、学生評価に基づく授業改善等々、中期目標・計画を先取りする形で教育改革を進めている。</p> <p>地域密着型環境材料から先端ナノ材料、さらに革新的二次電池の開発に成功し、農業副産物からの高表面積活性炭、磁器廃材からの環境浄化用多孔体、ナノサイズのセラミックスチューブ、高性能リチウムイオン二次電池の製造に成功している。</p> |
| <p>機械システム工学科</p> | <p>環境流動システム、熱エネルギーシステム、先端材料システム、設計生産システム、及び知能機械システムの講座があり、先進的な機械システム工学の教育・研究を行っている。大学院進学率や就職率も高い。</p> <p>環境流動システム学講座 - 環境問題に関連した自然エネルギー利用研究で、特に波力発電用タービンの開発においては世界的な研究成果を挙げている。 また、英国、アイルランド、インド、中国、韓国の研究機関との共同研究を実施しており、毎年、多数の共著論文を公表している。</p> <p>熱エネルギーシステム学講座(1) - エネルギー機器の高性能化や安全性に不可欠となる伝熱技術に関する基礎研究。 様々な実験技術を生かし、材料製造時などの高温面の急速冷却時の熱伝達、吸収式冷凍機での熱物質移動現象の促進とその計測技術、水素貯蔵技術の高性能化等について実験的研究を精力的に行い、その成果の一部は製品開発にも寄与している。</p> <p>熱エネルギーシステム学講座(2) - 自然冷媒を使った新しいヒートポンプシステムの開発及びその要素機器の基礎研究を行っており、特に凝縮器及び蒸発器に関しては種々の伝熱促進管の実験を行い、実機の設計指針となる多くのデータを報告している。また、吸収器の吸収促進機構に関する基礎実験と数値計算を行い、空気を冷却熱源とする高性能管内吸収器の開発を進めている。</p> <p>先端材料システム学講座 - 「材料」と「力学」に関する諸問題、例えば材料開発からそれらの構造物部材への応用に至るまでの幅広い分野において、部材の安全性・信頼性を向上させ、かつ低コストとなるような設計手法について鋭意取り組んできており、組織・構造・接触等の工業的又は工学的問題についての研究成果を毎年数十編、国内外に公表し続けている。</p> |

| | |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>機械システム工学科</p> | <p>設計生産システム学講座 - 機械装置において、高速回転する軸を支えたり動力を伝達する軸受や歯車は、機械を構成する基本的部品(機械要素)の中でも、最も高い信頼性が要求される部品であり、それらの機能・耐久性が機械システム性能向上の鍵を握る。本講座では、転がり軸受やボールねじ、歯車など、主に接触を伴う精密機械要素について、次世代に通用する小型化、高精度化、高機能化をキーワードとして、負荷能力や運転性能の向上、及び設計・加工技術開発に関する研究に取り組んでいる。</p> <p>知能機械システム学講座 - 知能機械システム学講座では、計測・制御の研究の1つとして、無響室・残響室を利用し、球面反射板で音を消す方法や、レーザ(光)を用いたマイクロホンや波動方程式に基づく超音波を用いた新しいシステムを開発し、音の発生源を突き止めるなど創造的な研究を行い、ロボットの研究では医学部と共同で医療・福祉ロボットの研究を進め地域貢献を図るほか、歩行ロボットの研究等を行っている。</p> |
| <p>電気電子工学科</p> | <p>大学院修了者を含む当学科卒業生への産業界からの期待は、極めて大きく、「ものづくり日本」を支える多種製造業並びに、近年、実社会から強い関心を持たれているエネルギー、環境、エレクトロニクスや情報通信(IT)分野への就職率が高く、ほぼ100%の就職率を誇る。</p> <p>電子システム工学講座-プロセスプラズマの発生・制御技術、陶磁器への応用を目指した耐摩耗性・超撥水性等の機能性薄膜作製技術開発やその場処理を目指した医療廃棄物処理技術開発。この他、地域貢献事業として県内小・中学校教諭と共同でリフレッシュ理科教室(毎年700名以上の参加者)や小学校への出前事業の実施している。また、大気圧放電プラズマを利用したオゾンの高効率的生成技術の開発、トルエンなどの揮発性有機化合物(VOC)の効率的分解処理技術、半導体プロセスで使われるCF4などの高分解処理技術やCO2の分解処理と副生成物の再資源化の研究に取り組んでいる。</p> <p>また、パルスパワー工学を取り込んだ水中内放電による水処理の研究や数気圧下での希ガス中での放電による真空紫外光の発生の研究に取り組んでいる。低圧放電プラズマによる滅菌の研究、レーザ照射による歯の表面改質など医療分野への応用研究でも非常に注目されている。稲の食害問題を引き起こしているジャンボタニシの電氣的防除の研究は国内外を通して非常に珍しく特徴的な研究として注目されている。さらに、電磁界シミュレーション技術の高度化・実用化を目的とした解析手法の開発及び電気電子機器の実機への適用に関する研究も行っている。</p> <p>知能計測制御システム工学講座-生体信号からのヒトの意志抽出、運動障害者のための食事動作支援ロボットの製作と制御、脳波の自動判読システムの開発、発電所設備の点検間隔決定と保全業務の自動化、海洋温度差発電システムのモデル構成と制御等の研究開発を行っている一方、医療福祉や、産業界、自動車関連などへの利用を目的とした、ヒトや生物の感覚機能を模倣したユニークなセンシングシステムや独創的な多機能知能計測システムの研究開発も行っている。また、生体脳における情報処理機構の解明や脳型情報処理技術の工学的応用の研究も行っている。</p> |

| | |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>電気電子工学科</p> | <p>電子情報工学講座-高度情報化社会を支える基盤技術について、「光」と「半導体」をキーワードに、世界をリードする新しい光デバイスやナノ加工技術の開発、シンクロトン光を利用した半導体プロセス開発などをシンクロトン光応用研究センターやベンチャー・ビジネス・ラボラトリと連携して教育研究を進めている。</p> <p>また、視覚素子、光情報処理、ニューラルネットワーク、コンピュータビジョン、バイオインホマティックス、筋電信号の解析等の研究を行っている。</p> <p>情報通信工学講座-平成14年度から、Webベースでの教務事務支援システムの開発を独自で行い、平成17年度前期から、教養教育科目の主題科目の履修予約システム、前期履修登録システムを実現している。</p> <p>このようなシステムを教員、事務職員並びに在学学生が参加して自前で開発した例は、全国でも珍しい。</p> <p>特に、本システムの開発に従事した学部卒業生や大学院修了生は、近年流行の「ソリューション」分野の企業に就職し、実社会で即戦力として活躍しており、本研究開発は、実社会からの要請を受けた教育の一環として評価されるべきものであろう。</p> <p>また、大学ではめずらしく、LSI等の設計から装置化実装技術に至る幅広い「ものづくり研究」を展開しており、情報通信機器等の開発において益々重要度が高まっている実装技術の研究教育はユニークである。それに加えて、大変独創性の高いワイヤレス高周波技術の研究も進展しており、世界に先駆けて実現した4次高調波ミリ波発振モジュールなど、多くの先駆的な研究成果を創出しつつある。</p> |
| <p>都市工学科</p> | <p>地域課題への積極的取り組み 都市工学科は、兄弟研究センターの低平地研究センターと共同で、超軟弱な有明粘土に起因する地盤沈下や地盤補強法の開発、現在大きな社会問題となっている有明海環境問題などの地域課題に積極的に取り組んでいる。また、佐賀や鹿島での景観形成調査や提案書作成には学生と教員が一体となって取り組んでいる</p> <p>卒業後の資格取得。 ・学部卒業時に測量士補の資格、1年間の実務経験後、測量士の資格を得ることができる。 ・学部卒業後2年間の実務経験を経て1級建築士の受験資格が得られる。</p> <p>建設構造学講座 - 汎用構造解析プログラムの開発と教育研究への利用。 3次元静的、動的、線形、幾何学的非線形、材料非線形全て考慮できる汎用構造解析プログラムを本講座で開発し、教育研究に用いている。商用プログラムによる教育研究を行う所は多いものの、解析部をブラックボックス化せず教育研究を行っている講座は非常に少なく、ユニークな教育法と言える。</p> <p>建設地盤工学講座 - 軟弱地盤に関する教育研究。 佐賀平野は、我が国有数の軟弱地盤地帯であり、地盤沈下や支持力不足等に見られるような社会生活上の問題が多く存在している。軟弱地盤研究に最も適したフィールドを有する本学科の地理的条件は極めて魅力的であり、地盤工学の中でも特異な挙動を示す軟弱地盤を対象にした教育研究を地域や各関連機関の協力も得ながら実施している。</p> |

| | |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 都市工学科 | <p>環境システム工学講座 - 総合的水管理・水政策分析。 この先駆的なテーマを対象として、ダム貯水池、河川、海域における水質解析モデルを開発している。また、新素材を使った排水処理技術についても、独自のアイデアに基づいた研究を産官学協同で開発し実用化に向けた検討を行っている。</p> <p>有明海や低平地河川に関する教育研究。 有明海や低平地河川とその流域、さらに縦横に張りめぐらされたクリーク網などが間近に存在しており、その1つ1つが我が国でも特異な性質をもった非常に興味深い研究対象である。本講座では、このようなフィールドを直に体験しながら様々な専門知識を習得することが可能である。</p> <p>環境設計学講座 - 都市計画デザイン・建築デザインにおける実践的教育研究。 21世紀の都市や建築について、実践とのフィードバックを大切にしながら、計画・デザインの面から研究する。通学児童の安全環境対策、伝統的な町並みや集落調査、公共デザインの調査の他、建築の企画、デザインなど、実際の課題解決に即した研究を主軸に置いている。設計・デザイン演習などの教育面でも、自治体等の協力を得て、現場に立脚したプログラムを実施しており、さらに、都市史、建築史、計画手法などの理論的研究も並行して行っている。</p> <p>社会システム学講座 - 都市の環境と空間に関する教育研究。 都市の環境と空間の魅力的な創造には活動主体である市民と計画やデザイン分野の専門家の協働によるまちづくりが重要である。このようなまちづくりへの支援を視野に、都市環境と空間の把握、解析、評価の方法を統合化する計画支援システムについて本格的な教育研究を行っており、地方大学ではユニークな存在である。</p> |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

農 学 部

| 学科・講座等 | | 誇れる点、優れた成果等 |
|---------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生物生産学科 | 資源社会管理学講座 | 農学部で唯一、農業経済、地域文化という文系的な視点で教育・研究に取り組んでいる。現場を歩くフィールドワーク的な手法で、地域の課題を掘り下げており、研究対象地域は佐賀、九州、アフリカ、南太平洋諸国、東南アジア諸国と大きく広がっている。教育・研究の一環として、 棚田保全や棚田米ブランド を生かした地域おこし、草刈りなど森林保護活動などにも取り組んでいる。 |
| | 生産生物学講座 | 食料生産技術における基礎科学としての生物学について教育研究を実施している。烏骨鶏特異的DNA配列の発見、CAM型光合成における代謝経路の解明、イネ紋枯病抵抗性系統の遺伝子発現解析、豚尿汚水処理水の作物栽培への利用法の開発、畦畔・法面の植生保全法の研究、子豚の早期離乳法の開発など多くの研究成果を発表し、 国際的にも高く評価 されるとともに、食料生産現場からも注目されている。 |
| | 生産情報科学講座 | 情報科学の理論と技術を積極的に取り入れて、環境に配慮した生物生産技術の確立を目指した教育研究を行っている。特に、収穫された穀物を最良の状態での貯蔵するための自動化と診断システムの研究開発を行う研究室がある。また、近年重要性を増した閉鎖性水域における物質循環と水質シミュレーション技術の開発に関して優れた研究成果を発表し、さらに、 生態系モデルの開発に着手した研究室もあり、地域から注目 されている。 |
| | 生産環境工学講座 | 人間の生活にとって基本的な環境要因である水、土、緑などを良好な状態に管理し、地域特性を生かした生産環境を創造するための教育研究を行っている。農学部ではごく稀な地圏環境研究分野があり、電磁波などを利用した地球内部構造の研究が行われている。また、 有明海の生物生産環境の研究に欠かせない浅海干潟の環境特性と機能および保全 について教育研究が行なわれている。多くの研究成果を発表し、 全国的に注目 されている。 |
| 応用生物科学科 | 生物工学講座 | 主として植物のバイオテクノロジーを教育研究している。有明海の干潟に自生するシチメンソウの耐塩性のメカニズムの解明、耐塩性を維持している遺伝子群の単離、さらに、それらの遺伝子を導入した耐塩性作物の作出、ポリフェノールタンパク質複合体の調整と利用技術の開発、植物の機能性成分の検索と構造解析、イネ、ダイズ、野菜、果樹、花、茶等の遺伝資源の収集・保存、遺伝子分析、育種などの研究で優れた成果をあげている。 |
| | 生物調節学講座 | 有機物の土壌還元リサイクルと作物の品質向上、高度水耕技術の開発、蛍光染色による環境微生物の迅速検出法の開発、堆肥原料の微生物的無害化処理装置の開発等、資源循環と農業の発展に多大に貢献している。また、 ウイルスや糸状菌などの病原体の生態、分子進化さらに植物との相互作用 について 国際的にトップクラスの研究 を行っており、高い評価を受けてる。 |
| | 動物資源学講座 | 日本の国立大学で唯一の線虫学研究室 があり、線虫に関する教育研究のメッカとなっている。また、農作物に激害をもたらす害虫の海外からの飛来の証明、半翅目昆虫では世界初の子育て行動の発見、無脊椎動物で初めてのサイトカインの発見と作用機構解明、昆虫と植物の相互作用の解明などの 国際的評価の高い研究 がなされている。 |

| | | |
|-----------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 応用生物科学科 | 生物機能化学講座 | タンパク質のX線結晶構造解析と酵素触媒機構の解明で優れた実績を有する研究室があり、低温適応プロテアーゼの立体構造解明やフェノール酸化酵素の内因性阻害物質の化学構造の解明に初めて成功した。また、 研究室で育種した発酵微生物を利用した発酵製品が県内で市販される など、地域産業の発展にも大きな貢献をしている。さらに、バクテリオファージを用いた特色ある研究でも注目を集めている。 |
| | 生物資源利用化学講座 | 食品の機能成分の探索と生理機能解析を中心に研究を行っている。特に、食事成分の 脂質代謝調節機能 に関して多くの成果があり、共役脂肪酸および含硫化合物の肥満抑制作用を発見した。また、海藻多糖の構造解析、機能性オリゴ糖の酵素合成法の開発、果物や野菜の褐変機構の解明、加圧熱水による植物バイオマスの糖化プロセス開発など多くの研究成果を発表し、 国際的な評価も高い 。 |
| 附属資源循環フィールド科学教育研究センター | | 資源循環型農業の技術構築を目指す 循環型農業推進分野 、有用遺伝資源の保存とそれらを活用した新品種の育成を行う 遺伝資源活用推進分野 、地域社会との連携による資源循環型社会の確立を担う 地域連携推進分野 から成り、現在までに培われてきた農業技術を検証するとともに、資源循環を旨とする新たなフィールド科学の創造に取り組み、総合的な農学の教育研究の推進と地域貢献を目指している。 |



学位記授与式



入 学 式



学 園 祭

発 行 / 国立大学法人佐賀大学広報室

問い合わせ先 /

Tel.0952 - 28 - 8407又は8153